

「松江城国宝指定と今後のまちづくり」

講師：松江市教育長 清水伸夫 (20)



●清水伸夫氏

松江市出身。松江北高、慶応義塾大学卒。昭和48年松江市採用。水道部長、総務部長、市長室長、交通局長などを経て平成25年5月から現職。

殿町に住んでおりましたので子どものころ、松江城のお堀でザリガニを採ったり、馬場池の奥の森に出かけてクルミを探したりとよく遊んだものです。市民の悲願だった松江城の国宝指定という嬉しいご報告をさせていただきます。

松江城天守は昭和10年、国宝保存法に基づいて国宝に指定されました。しかしながら、戦後、文化財保護法(昭和25年施行)によって重要文化財という位置づけに変わりました。新法における国宝とは「重要文化財のうち極めて秀で、かつ、文化的意義の特に深いもの」とされ、姫路城、犬山城、松本城、彦根城が国宝に指定されたのです。

松江城は「極めて秀で」ていないとされたわけですが、4つの国宝天守と比較すると、松江城は高さで3番目、面積で2番目です。規模としても国宝の資格を十分に持っていたんだなあといま改めて思います。その辺りの選定基準が少しあいまいで、松江市民としては釈然としないものが残った決定だったと思います。

昭和30年代には国への陳情も行われたようですが、立ち消えになり、私が松江市役所に入った昭和48年時点で国宝を目指す取り組み、運動はまったくありませんでした。

それが、副教育長だった平成17年2月、松浦正敬市長から呼び出され、こう言われました。「松江城の国宝化についてどう思うか」「なぜ松江城は国宝にならなかったのか」

文化庁を訪問して主任調査官に意見を伺ったところ、こんな見解が示されました。奈良の長谷寺本

堂は再建時期が不明確だったのが、新たな調査研究で慶安3(1650)年であることが判明し、平成16年に国宝に指定された。姫路城が世界遺産になったこともあり、全国的に城郭をめぐるムードが高まっている。松江市も新しい発見、知見に基づいた、築城時期や城郭構造に関する歴史的な位置づけをしっかりと持たれば、国宝の可能性は十分にあると思う。

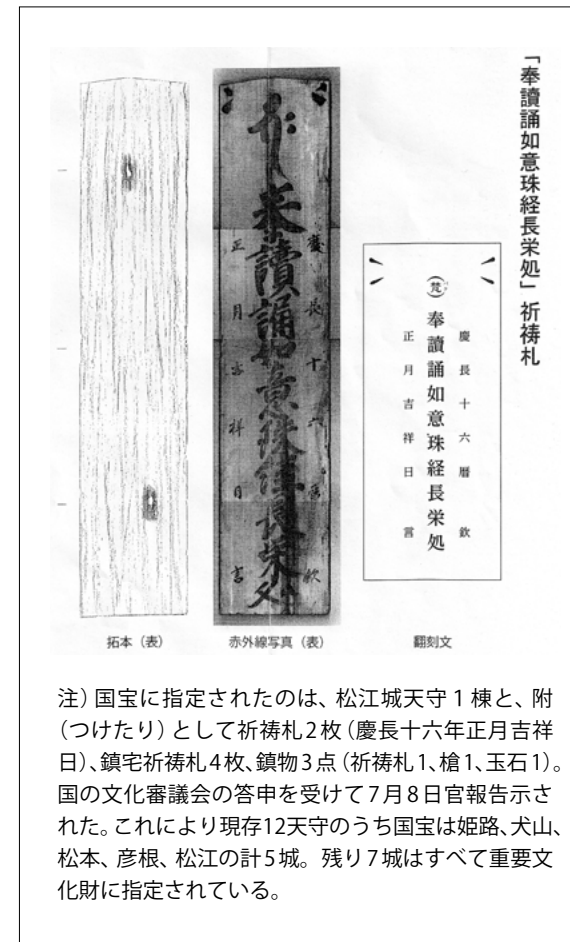
大変に心強い言葉をいただいて、さっそく松浦市長に報告しました。そして、平成21年に「松江城国宝化運動の推進」が市長の公約に盛り込まれ、松江市議会議員連盟と市民の会が発足、翌22年には128,044人の署名を集め、松浦市長と藤岡大拙・市民の会会長(島根県立大学短期大学部名誉教授)が文化庁を訪問して提出しました。その際、文化庁長官から「今後の調査に期待したい」との言葉があったとのことで、やっぱり市民運動と並んで学術調査も必要なんだと改めて感じた次第です。

その学術調査で大きな転機があったのは平成24年5月でした。昭和12年に存在が確認されながら昭和30年の修理報告書で記載漏れとなり、行方が分からなくなっていた2枚の祈祷札が見つかったのです。

祈祷札が不明になっていることは昭和41年の学術論文で問題提起されていました。そこで市史料編纂室の職員が松江神社に保管されている松江城

関連の資料を編纂室に持ち帰って調べたところ、論文の指摘通り2枚の祈祷札がありました。

札には「慶長十六曆」「正月吉祥日」とあり、どちらもお経が読まれたことが書かれていました。「武運長久」といった言葉もあります。ただ、「松江城」を示す記載がないため、札と城との関わりが様々な角度から検討されました。そうした中で、天守地階(塩蔵の間)の2本の柱に釘穴が見つかり、それが2枚の祈祷札の釘穴とびたり一致したのです。



注) 国宝に指定されたのは、松江城天守1棟と、附(つかけり)として祈祷札2枚(慶長十六年正月吉祥日)、鎮宅祈祷札4枚、鎮物3点(祈祷札1、槍1、玉石1)。国の文化審議会の答申を受けて7月8日官報告示された。これにより現存12天守のうち国宝は姫路、犬山、松本、彦根、松江の計5城。残り7城はすべて重要文化財に指定されている。

これで松江城の完成が慶長16(1611)年だったことが確定しました。平成27年5月15日、国の文化審議会は松江城の国宝指定を文部科学大臣に答申しました=注。指定要因は、「建築年代が明確になった」でした。釘穴を本当によく見つけたものだと思います。

指定要因はもう一つありました。「独自の特徴ある構造が明らかになった」というものです。これは松江城調査研究委員会(平成22年設置)の委員長を務めていただいた西和夫・神奈川大学名誉教授の研究の成果でした。昭和の大修理の資料を分析し、かつ姫路城など他の天守の資料と比較することで、「2階分の通し柱や包板の技法を用いた特徴的な柱構造が解明され、天守建築に優れた技法を用いた事例であることが判明した」と高く評価されたのです。

西先生は平成27年1月に亡くなりました。松江城の大恩人が、松江城国宝指定答申を見ずに逝かれたわけで残念でなりません。

さて、松江城国宝指定で私どもはある意味、大きな課題を背負ったと言えます。城そのもの、城の周辺、さらに市全体をいかにして磨きをかけていくか。その課題に応えるには、松江城や文化財は教育委員会が、それ以外の街づくりは別の部局が、という従来の組織では整合性のある街づくりは出来ないことは明らかです。

松江市は昨年からそうした縦割りをやめ、「歴史街づくり部」が担当する体制に変わりました。都市計画、景観保全、街の活性化といった多様な側面から松江の魅力を高めていくべく努めてまいりたいと思います。

抄録担当：渡辺 悟 (20)